

～キレイを目指し、純粋に働く人たち～

# pureera

 びゅあら  
 第5号

 今年の夏は  
 とても暑かった  
 ですね。

## クリーン&クリーン 暑い夏を乗り越えて

2012年の夏は7月後半以降気温が高くなり、日本各地で猛暑となりました。東北の各地方では晴れの日が続き、降水量が少なく、暑い日が続きました。猛暑日（日最高気温35℃以上）、真夏日（日最高気温30℃以上）の日数は、東日本で平年を上回った所が多く、東北の各地でも夏の猛暑日数日の最大値を更新しました。夏期のクリーン&クリーンは工場内が大変暑くなります。中でも、本社の東北工場、北海道の札幌工場、埼玉県の春日部工場の3工場とも安全と体調管理に気を配り、工夫をしながら今年の夏を乗り越えました。今号では、暑さ対策に取り組み夏を乗り越えたクリーン&クリーンをお伝えします。



## クリーン&クリーン 暑さとの戦い

### 暑さとの戦い

クリーン&クリーンの工場内は、広く大きな空間で作業しており、基本的に空調を行っておらず、外気温の状態と変わりません。夏場は特に暑い中での作業となります。その中でも、3工場とも環境と体調管理に気を配り、工夫をしながら稼働しています。工場内は、洗浄工程で温水を噴きかけて汚れを除去することから高温多湿の状態となります。更に手洗い作業については、蒸気ボイラーを使用して高温にした約80℃のお湯で洗浄を行っています。過去に手洗い作業を行っている従業員の中には、体重50kg台の方が一日で3kgも痩せてしまう状態になってしまったこともあります。

休憩時には、上腕の方まで冷水での手洗いを励行してい

### 熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分（ナトリウム等）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称です。めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感、意識障害・痙攣・手足の運動障害、高体温などの症状が現れます。



7～9月における熱中症による死亡者数は毎年1000人を越え、年々上昇傾向にあります。業種別では建築業、製造業、農業の順に多いため、注意が必要です。

ます。特に手洗い作業は高温多湿の上記、常に高温のお湯を使用していますので、手洗い業務の従業員には常に怠らないよう指示徹底させています。また洗浄工場ならではの対策になりますが、特に暑い日などは、定期的に高圧洗浄機で水をミスト状に噴きだして、蒸発による気化熱を利用して、工場内が涼しくなるように工夫しています。こうして、暑い夏場を乗り越えてきたクリーン&クリーン。夏場だけではなく冬場もそれぞれに課題はありますが、こうした対策に工夫をしていることもあり、洗浄コンテナの3と0に気温やシーズナリティはありますが、作業方法や作業効率には大きな変動を起さず業務を遂行することが出来ています。

## 夏の作業の良いところ

### 良いところ

暑く大変な夏場の作業においても色々な工夫を凝らすことにより、体調を崩すこともなく作業性を維持することが出来ていますが、冬が寒い札幌工場では夏場が、作業性においてもコスト的にも効果的な時期であるといえます。言わばチャンスの時期という事になります。洗浄工程では、洗浄品を破損や汚れのチェックをしたのち、40℃、60℃、90℃の洗浄液で3回洗っていきませんが、洗浄装置内の水を温めるのに、冬期の1/2～1/3の時間で済み、アイドリング時間短縮と、使う燃料が少なくて済むため、コストの削減に繋がっています。その他にも、夏場のメリットがあります。洗浄、脱水後の乾燥が夏場は速く次の工程に直ぐに移行することが可能です。これも冬場に比べると作業性としては効果的です。暑さで体調管理には大変気を使いますが、厳しい寒さの札幌工場では、（他の工場にも同じことが言えますが）夏期は、特に効果的で省エネ稼働をすることができるといい面もあります。

